



列状間伐現地

検討会を開催

岩手北部森林管理署

6月30日(金)に、八幡平市の苗代澤山国有林において、関係林業事業者、東北森林管理局、当署の担当者など約40名が参加して、列状間伐現地検討会を開催しました。

はじめに、岩手北部森林管理署長から、平成27年度に間伐要領が改正され、今後は、間伐の効率性、安全性等の観点から、列状に選木する「列状間伐」を推進していくことについて、理解を求めました。



列状間伐の伐採列



伐倒作業の実演

次に、東北森林管理局資源活用課長からは、平成27年までは、メートル幅で考える列状間伐により実施してきた方が、この方法では、残された立木に対して間伐の効果が薄く、間伐の目的である密度管理上、植栽列で考えた列状間伐を進めていく必要があるという話がありました。

当該箇所では生産請負を実施している事業者からは、「見る人によって列の考え方が異なり、選木で苦労している。列の幅が狭く、かかり木が多く発生し、集材も大変。搬出の際には、周囲の木に傷を付けやすく注意している。」と労力が増えたこと等についての意見がありました。これについて、資源活用課長と当署総括森林整備官から、テープで明示する、又は少し離れて枝葉を確認すると列が考えやすくなった、

安全な作業方法や選木方法などについても、具体的に指導しました。

その後、伐採列を確認した後、列状間伐における伐採の実演として、立木を2本伐倒しました。1本目は列のとおりに倒れましたが、2本目は周囲の枝葉にぶつかりながらの伐倒となり、列に沿った伐倒の難易度の高さがうかがえました。

最後の意見交換では、「造林地に侵入してきた広葉樹は、列状に並んでいないが、このまま伐倒するとかかり木になってしまつという場合、列以外で伐採しても構わないか。」との質問があり、資源活用課長から、「危険があるのであれば、列状にとられることはない。あくまで安全第一。ただし、伐採率の関係上、広く伐採した分、別の場所に残すこと。」との回答がありました。

最後に、当署総括森林整備官から、まとめとして今回の検討会の内容を今後の事業に生かして欲しいという話があり、本検討会は終了となりました。

作業方法が変わつた直後で戸惑う部分もあるかと思われませんが、本検討会で各々が確認でき、有意義なものになったと考えています。



意見交換の様子

平成29年度村山市「ふるさと教育の森」の開催

山形森林管理署

村山市教育委員会の「ふるさと教育の森」は、村山市内の中学校を対象に、午前中は植林体験、午後は地域の団体や関係機関による森林教室など体験学習の実施を通じて、子供たちに自然の大切さやふるさとへの愛着をやしなう取り組みを実施しています。

昨年度、国土緑化推進機構から「ふれあいの森林づくり」としての功績が認められ、理事長賞の表彰を受けました。また、活動状況を記録したDVDは、第65回山形県自作視聴覚教材コンクール学校教材部門で最優秀賞を受賞しました。

今年も、村山市山の内国有林(村山市分収造林)において、6月6日に楯岡中学校1〜2年生280名、7日に3年生154名が、スギとブナの苗木を植林しました。当署の職員は植林



植林指導



植林状況

指導と補助等を担当し、事故もなく終了しました。梅雨も近いため天候が心配されましたが、2日間は無事に開催できました。8日の葉山中学校の植林体験は雨のため残念ながら中止となりました。

この取り組みも今年で36回目を数え、植林は親から子にわたり続いている活動であり、当時の思い出として親子に話されたことを聞きました。

過去に植林したスギが現在、大きく育っていることを嬉しそうに話したそうです。(ご様子が思い浮かびます。)

今後とも「ふるさと教育の森」活動を通



植林状況



植林状況

して、「村山市の中学生が森林の役割を理解し自然環境を守り、故郷について学ぶ」この地域の取り組みを支援していくつもりです。

**平成29年度国民の森林づくり等の  
功労者への局長感謝状の贈呈  
(山形市成沢グリーンフィールド協力隊)**

**山形森林管理署**

6月16日、山形市役所において、山形市成沢グリーンフィールド協力隊への感謝状伝達式が、山形市長同席のも行われました。



表彰状の贈呈



署長の挨拶



山形市長の祝辞

の栽培)、高校生に対する自然環境体験への協力などに取り組んでいます。

なお、活動フィールドである蔵王成沢地区内の「ニッ沼」はかんがい用溜池として下流域の蔵王成沢地区を潤す重要な水源地であり、また、「西蔵王地区」は太平洋側・日本海側の多々の植物が混在する地域でもあり、地域の人々から親しまれています。

本協力隊が、今後とも本地域の森林保全活動、森林整備、自然環境教育活

本協力隊は、平成18年2月から現在まで、ボランティア活動として、ニッ沼周辺国有林(山形市分収造林地)等において下草刈や遊歩道の整備を実施するとともに、地域住民との交流を深めるため山菜祭りやきのこ祭りの開催をはじめ、地元の小学生への森林教育活動

**林野庁長官感謝状の贈呈  
植生回復事業の取組**

**置賜森林管理署**

平成29年7月8日、米沢市西部コミュニティセンターにおいて、環境保全活動に取り組んでいる団体「ネイチャーフロント米沢」(青柳和良代表)へ、林野庁長官からの「国民の森林づくり推進功労者感謝状」を贈呈しました。

この感謝状は、国有林における保全活動の取り組みや普及活動等、長年の功績が認められる者に対して林野庁長官から贈られるものであり、2009年度から行っています。

ネイチャーフロント米沢は、吾妻山周辺森林生態系保護地域において、裸地化した湿原の植生回復事業の取り組みを14年間続けてきているほか、こ



受賞関係者の記念撮影

動に積極的に取り組んでいかれることを期待します。

INFORMATION

新任者略歴紹介

7月10日付け

局長

こじま たかふみ  
小島 孝文  
(東京都)



昭和62.4 農林水産省入省  
平成24.4 林野庁計画課 施工企画調整室長  
平成26.7 林野庁 木材産業課長  
平成28.8 林野庁 整備課長

からは、長年の功績に対する感謝と敬意の言葉が述べられ、団体の青柳代表からは感謝状授与は激励と受け止め、今後とも頑張つて行きたいとの決意表明



感謝状授与記念写真

の取り組みを通して環境保全活動の普及にも多大な貢献をしており、今回、その活動が高く評価され、感謝状が贈呈されたものです。贈呈を行った置賜森林管理署長

があり、出席した会員からも大きな拍手を受けていました。贈呈式の後は、通常の例会が行われ、早速、今年度の植生回復事業の詳細について打合せをしていました。感謝状授与が刺激になったのか、互いに活発に意見を出し合う会員のいきいきした顔がとても印象的でした。



植生回復作業状況

朝日山地人工林の

林況調査

朝日庄内森林生態系保全センター

山形県と新潟県にまたがる朝日山地森林生態系保護地域（区域面積は約70千ha（うち山形県内は48千ha）のうち山形県内には人工林が79箇所、約271haが含まれ、その取扱いは「育成複層林施業等針広混交林化を図るために必要な施業を行い、将来は天然林に導く。」こととしています。

今年度は個々の人工林について、6月から9月にかけて広葉樹の侵入状況や路網の状況を調査し、今後の施業について検討を行うこととしています。具体的には、人工林を次の4つに分し、今後の森林計画への反映等について、関係森林管理署と検討を行う予定です。



林況調査の様子

- ①主伐及び間伐を行い針広混交林へ誘導する箇所（路網あり）
- ②間伐（伐り捨て）を検討する箇所（路網なし）
- ③すでに針広混交林化しており自然の推移に委ねる箇所
- ④すでに天然生林化している箇所



搬出路の調査

